

【2021 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間関係論		必修	1	1	前期・後期集中
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
鈴木 真吾 他	B309	shsuzuki	火曜日 10:40~12:10		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 人間関係に関する関係・行動様式ごとの特徴や課題を知り、さらに文化的な視点からも人間関係を見ることが出来る。人間関係に関する多様な知見を通して、人間関係のあり方を考えられる豊かな人間性を培うことを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt; Teams を用いた同時双方向型授業で、人間関係に関する基礎知識を教授し、心理・社会的な知見を幅広く紹介する。</p>				
学習上の助言	社会で生きる上で人間関係のテーマは欠かせない。学んだ知識を自らのものとし、常に自他を意識して日々の人間関係を振り返ることを勧める。				
教科書	教科書は指定しない。				
参考書	「はじめてふれる人間関係の心理学」榎本博明 (著) サイエンス社				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	幅広い教養を身につけ、コミュニケーション能力の基盤となる人間関係の基本を知る。			HSU (1) (2) (4) (5)	
②	豊かな人間性を備えた社会人として、社会における人間関係のあり方を考える。			PT (4) OT (3) WP (1) (6)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	見る・見られる人間感を知る。 ~印象形成と対人認知、対人魅力~	同時双方向型 授業	授業後にリアクションペーパーに回答して授業ノートを復習する。	3.5	
2	言葉を使う・使わない人間関係を知る。 ~言語的、非言語的コミュニケーション~	同時双方向型 授業	授業後にリアクションペーパーに回答して授業ノートを復習する。	3.5	
3	性格と行動から人間関係を知る。 ~性格の病理、向社会的行動、攻撃行動~	同時双方向型 授業	授業後にリアクションペーパーに回答して授業ノートを復習する。	3.5	
4	自己と文化から人間関係を知る。 ~自己概念、自己評価、日本的自己~	同時双方向型 授業	授業後にリアクションペーパーに回答して授業ノートを復習する。	3.5	
5	友人関係から人間関係を知る。 ~友情を形成する要因と葛藤~	同時双方向型 授業	授業後にリアクションペーパーに回答して授業ノートを復習する。	3.5	
6	恋愛関係から人間関係を知る。 ~恋愛の様式とその進展、感情~	同時双方向型 授業	授業後にリアクションペーパーに回答して授業ノートを復習する。	3.5	
7	家族関係から人間関係を知る。 ~親子関係と家族機能の課題~	同時双方向型 授業	授業後にリアクションペーパーに回答して授業ノートを復習する。	3.5	
8	集団における人間関係を知る。 ~リーダーシップ、集団の心理~	同時双方向型 授業	授業後にリアクションペーパーに回答して授業ノートを復習する。かつ定期試験の準備として総復習を行う。	5.5	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【2021 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計	
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他		
		76	24	0	0	0	100	
総合力指標	知識・技術力	56	5	0	0	0	61	
	思考・推論・創造する力	10	14	0	0	0	24	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
	問題を発見・解決する力	10	5	0	0	0	15	
評価のポイント		評価の実施方法と注意点					フィードバックの方法	
評価方法	行動目標							
試験	①	✓	定期試験では、授業で説明した知識を問う記述設問、加えて人間関係を取り巻く社会の諸問題について、学生自らの考えをまじえた解説を求める論述問題を出題、評価を行う。総計 76 点の配分とする。					試験実施後に研究室にて答案を返却する。また試験の得点分布を Teams にて掲示する。
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	各回授業後にリアクションペーパーとして、授業で得られた知識に基づき、現在の人間関係と社会動向との関連を意識して、自ら思考・創造した見解を述べることを求める。各回 3 点の評価点を割り当て、総計 24 点の配分とする。規定文字数に満たない、現象の記述のみで自らの見解が記述されない等を減点対象とする。					リアクションペーパーを回収後、フィードバックコメント及び評価点を付して返却する。
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>担当教員：◎鈴木 真吾（通常開講：前期）、瀧口 綾（2 年次再履修者対象：後期集中）</p> <p>Microsoft Teams を用いた同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励します。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもあります。</p> <p><b>教員の実務経験：</b> 本科目の担当講師は、臨床心理士及び公認心理師資格を有し、17 年の心理相談業務の経験がある。</p> <p><b>実践的授業の内容：</b> 医療（精神神経科・小児科）及び教育（スクールカウンセラー・発達への特別支援）の現場経験を活かして、人間関係の理解に係る真摯な見識を学生に教授する。</p>								